めぶく。プラットフォーム前橋
（地域人材の育成・定着に向けた産学官連携基盤推進協議会）
第５回会議（第２回運営委員会）議事要旨

Ⅰ 日時

令和２年 １０月５日（月）午前１０時００分～１１時００分

Ⅱ 場所

前橋市役所 ３１会議室

Ⅲ 出席者

委員・オブザーバー １８名 ※別添「第４回会議（第３回総会）出席者名簿」参照

Ⅳ 会議経過･発言要旨

１．開会

・事務局から本会に関する説明。

２．重点事業に向けた計画と取組

・中長期計画（案）について大森学長）挨拶省略共愛学園前橋国際大学大森学長より資料１について説明があった。

大森学長）本中長期計画は、協議会等会議の中で提示されたものを集約したものである。事業についても曖昧な記載のものもあったが、それぞれ具体的取組を記すなど、実行に移すための計画として作成している。本日は特に検討、確認したい箇所に絞って説明する。

「P3.目的・ビジョン」について。事業において活動するだけでなく、活動結果確認、目標として、アウトカム指標を設定。これまで教育界の事業に設定していたものだったが、プラットフォーム全体の指標として設定した。指標３は共同事務局でも審議、検討し、価値観調査を行い、高校生等の意識の変化を確認することとした。

「P7.取り組み方針」について。取組の透明性を高めること、重点事業・連携事業に分け事業ごとに共同する部会を設定することを明文化した。部会設置を目的とするのではなく、事業の必要性に応じて、事業ごとに部会やワーキンググループ（以下 WG）設置をすることとした。

「P13.組織体」について。これまでも実施してきたことではあるが、今回改めて、評価体制について図表化した。評価はこれまでどおり、自己点検することとしている。

「P14.活動指標とアウトカム指標」について。どの時期にどの程度の活動をするのか明らかにするために活動指標等を定めている。

「P15.ロードマップ」について。これ以降のページは活動の流れとして、時期ごとの活動進捗を管理する計画を立てている。
本中長期計画は、本プラットフォームのホームページにも掲載をすることとし、運営委員長として、この中長期計画を管理していきたいと考えている。
⇒中長期計画（案）について質疑応答はなく、総意となった。

・リカレント（ビジネス）スクールについて共愛学園前橋国際大学大森学長より資料２について説明があった。
大森学長）重点事業として、モデルケースとなるように、リカレントプログラム（ビジネススクール）を産学共同で運営していきたい。運営スキームとしては、事業ごとに WG を設置していくということで、本学を中心に運営委員企業から派遣いただく社員の方々とコア WG を作ることを検討している。また WG 全体としては、プラットフォームに関わる全ての団体に広く声掛けさせていただき、可能な場合には参画いただきたい。コア WG では講座の内容や、実施形態などを検討する予定としている。タイムスケジュールとしては、今月中に WG を設置、今年度中にプレスクールの実施を検討している。次年度は正規プログラムを実行する計画であり、受講生の募集も行う。ビジネススクールのイメージは大学が中心となって実施することとして、ある程度の規模間のあるスクールを想定している。６０～１２０時間の講座として、履修証明を出せるプログラムを検討している。例えば 30 時間ごとの科目群があることや、ケーススタディではゼミを構成し、ゼミがケースごとに入れ代り、受講生同士の中核人材ネットワークの構築も検討している。文科省の BP（Brush up Program）を目指していきたい。厚労省の基準を満たせば、受講料補助を受けられる場合もある。講師は前橋六大学からや、東京からの講師を検討中である。できれば専任を一人設置して、講座等のマネジメントを行いたい。場所はまちなかに教室を置いて、実施したい。WG では、形態や、受講料、カリキュラム、広報や、選抜方法など、検討すべきことも多い。当初は共愛学園から持ち出しを検討しながら、将来的にプラットフォームからの補填も検討していただきたい。プログラムの方向性について、当初は次世代経営人材の育成と、企業家の育成の両輪を検討していたが、一度に二足の草鞋は難しいため、まずは次世代経営人材の育成に注力したい。
産業界委員）年齢層はどの程度を検討しているか。
大森学長）改めて経営者の皆さんにヒアリングしたいが、次の経営層になる、または、社長を支えていく層をイメージしており、現時点では中堅以上を想定しており、入社 5 年目などではない。年齢としては 40 代過ぎを想定している。ただし、要望があればもう少し若い人材をターゲットとしてもよい。
産業界委員）半年で１２０時間のイメージでよいか。時間帯はこれから検討か。

大森学長）講座時間および実施時間帯についてもこれからＷＧにて検討したい。その検討にあたり、現実的な声を企業から聞くために、企業からの WG への参加をお願いしたい。履修証明プログラムは 60 時間のものもあるので、120 時間で半年は困難な場合はそうしたことも検討しうる。

教育界委員：ビジネス基礎を希望した場合、この科目群からワンセットで履修するということか。

大森学長：はい。まだ時間の設定は十分ではないが、30 時間という中で複数の科目について履修するイメージを持っている。1 日、2 日で終わる規模感ではない。経営学部出身の方の場合は、既に学んだ内容かもしれないが、他学部の出身者にとってはよいと考えている。

産業界委員：１科目あたりの時間はどの程度か。

大森学長：一回を９０分で検討したいが一日に対する時間配分や、曜日の設定、講師の設定など、検討が必要となる。また、これだけのプログラムを運営する際には、教務マネジメントを行う人材採用をする必要がある。

産業界委員：資金源はどうするか。

大森学長：受講料で賄うが、足りない部分については検討が必要となる。

産業界委員：各省庁の補助金等の支援が得られるよう、沿ってプログラムを作るのか。企業内教育訓練費として設定することも検討できる。

大森学長：できれば受講料で賄うことを期待するが、定員は 20～30 名程度の教室を考えている。

産業界委員：受講生は企業で派遣する形も検討できる。リモートなどでも参加できるようになってきていることは後押しになる。

大森学長：商工会加盟の企業様にはぜひ受講生を出してほしい。その際に受講料はどの程度なら派遣いただけるか、定員なども WG で検討していきたい。

⇒以上の質疑を経て総意となった。

３．部会（WG）の設置前橋市未来の芽創造課大矢副主幹より資料３より以下の二点について説明があった。

・リカレント（ビジネス）スクールについて資料のとおりメンバーを構成したい。

・総務 WG について資料のとおりメンバーを構成したい。

⇒部会（WG）の設置について質疑はなく、総意となった。

４．その他

①合同 FDSD について

大森学長：合同の FDSD 研修会を 10 月 24 日（土）に開催する。文部科学省高等教育局高等教育企画課課長補佐の奥井氏をお招きし、グランドデザイン答申や地域の大学間連携に関してご講演いただく。奥井氏はプラットフォームや連携推進法人、大学設置基準の事務局をしている。これからの大学がどうなっていくのかの青写真を考えている方のため、是非ご参加いただきたい。

②前橋市スーパーシティ構想について前橋市未来の芽創造課谷内田課長よりスライド資料、「前橋市スーパーシティ構想」について説明があった。スーパーシティの中で、いくつかの分野があり、その一つに教育分野がある。プラットフォーム事業とも通じる点があるため、本日説明となった。
谷内田課長）背景として、世界では第四次産業革命、IOT を使った第四次産業革命が進んいるが日本では Society５． 0 に対応する都市がない。そのため、世界に対応できるような都市作成のために、本プログラムがある。ポイントは、実装を通じて、規制緩和を前提にした取組を行うことである。データ連携基盤制御をベースに、市民に役立つ新しいスーパーシティを作ることとしている。省庁を跨ぐ大胆な規制改革を行うこととして、総理大臣が各省庁に指定して、各省庁が検討することとしている。採択された場合、国の様々な支援を受けることができ、各補助金を優先的に受けられることとなる。前橋はこれからクリエイティブな人材、企業が集まる都市に変わる必要があるため、本プログラムの採択を目指したい。申請・採択に向けて、真の社会課題へのアプローチは何かを検討し、複層的な社会課題を明確にすることが求められる。一つの部門の最適化だけではなく、全体最適化を目指すとしている。本市のスーパーシティの構想は「フルマイナンバーシティ前橋」として、マイナンバーで日々の暮らしを安全に豊にする。世界初の「まえばし ID」で安全に豊に暮らす、としている。現在インターネット上でこの人がこの人だと特定するものはないが、 ネット上で顔認証することで人物を特定できることで、市民の暮らしを安全に豊かにできると考える。組み合わせるデータはマイナンバーカード、電子署名法の認定、顔認証。これらを市民合意のもとで、必要なときに必要な情報を安全に利用できることとして申請したい。

５．閉会

以上